週間展望・回顧（豪ドル、南ア・ランド）

December 24, 2021

豪ドル、変異株の重症化拡大に注目

◆豪ドル、年末年始は RBA 理事会や経済指標の発表がなく方向感がないか
◆豪ドル、オミクロン株による重症化症例拡大には要警戒
◆ZAR、1 月後半の CPI や SARB 理事会に向けての思惑相場か
※年内の週間展望配信は今回が最終、年明けは 1/7 から配信を再開いたします。

予想レンジ
豪ドル円　79.00-84.00 円
南ア・ランド円　6.90-7.50 円

12 月 27 日週の展望

豪ドルは方向感を探るのは難しいか。クリスマス休場明けとはなるが、主だった経済指標も 1 月 10 日の 11 月住宅建設許可件数や 1 月 11 日の同月貿易収支などまでは発表予定がない。また、毎月行われる豪準備銀行（RBA）理事会も、1 月だけ開催されず次回は 2 月 1 日となっている。よって、27 日週や年明けの 1 月 3 日週の市場を動意づける要因となるのは、地政学リスクや新型コロナウイルス・変異株（オミクロン株）の動向次第となりそうだ。

地政学リスクは、ウクライナ情勢が市場の最大の注目だが、豪ドルを動意づけるのは米中関係。バイデン米政権が生体情報を使った監視に関与したとして中国研究施設に制裁を科し、米議会でウイグル族強制労働防止法案を可決したことを受けて、中国が「報復措置を講じる」と反発姿勢を強めている。これまで、中国は米国への制裁の前に豪州に輸入停止などの制裁を科す傾向がある。再び中国から豪州への何かしらの制裁が発令されるリスクには備えておきたい。

オミクロン株に関しては、RBA は「新たな不確定要素だが、景気回復を妨げない見込み」としている。また、豪州の各州では感染者が増大しているにもかかわらず、入国規制を緩和し、経済活動が再開し始めている。注目したいのは、感染状況の重症度具合。連日数千人の感染を記録しているニューサウスウェールズ（NSW）州だが、ペロテイ NSW 州首相は「感染者数ではなく、ICU 収容者数が最重要な数字」とし、今後の規制導入については「重症患者数を新たな指針にする」と発表している。重症患者が増加しない場合は、これまでのようなロックダウンが導入されるとは考えにくい。もっとも、一部では重症化にならない場合でも医療体制のひっ迫を懸念する声も出ており、今後の感染状況の推移も注意深く見ておく必要はあるだろう。

南アフリカ・ランド（ZAR）は底堅いか。オミクロン株の重症化症例が少ないことで、11 月後半からの売りの勢いは弱まっている。経済指標では 30 日に 11 月財政収支、31 日に貿易収支、1 月 3 日には 12 月 ABSA 製造業 PMI が発表される。この中では、12 月の製造業 PMI に注目しておきたい。市場ではすでに 11 月より下回るとの予想が多い。なお、1 月 19 日には 11 月消費者物価指数（CPI）が発表されるが、結果次第では 1 月 27 日に開催される南ア準備銀行（SARB）理事会に向けて思惑が台頭することになりそうだ。

12 月 20 日週の回顧

豪ドルは堅調に推移した。オミクロン株への過度の警戒感が和らぎ、株高・債券売り・コモディティ高のリスクオンに動いた。豪ドルは対ドル、対円ともに強含んだ。また、豪大手金融機関が早ければ次回（2 月 1 日）の RBA の理事会で量的緩和を終了するとの予測を立てたことも豪ドルの支えとなった。ZAR も強含んだ。南アが世界最大の産出量を誇るプラチナ価格が上昇したことや、オミクロン株の重症化症例が少ないことが判明したことから、対円、対ドルともに 11 月後半以来の水準まで買われた。（了）

本レポートはお客様への情報提供のみを目的として作成したもので、売買の勧誘を目的としたものではありません。実際に投資をなさる場合の最終ご判断は、お客様ご自身でご判断なさるようお願い致します。本レポートを原因とするお客様の直接あるいは間接的損失および損害については一切補償には応じません。 Copyright DZH Financial Research, Inc.